― 国際協力フェスティバル２００１ ―

10月6日（土）、7日（日）に、日比谷公園で行われたフェスティバルに今年も参加しました。秋晴れの青空、しかも、今回は現地での活動経験の豊富なスタッフが多い上に、日本に滞在中のフィリピン女性ジェニリンさんも参加してくださって、にぎやかに開店しました。しかし、割り当てられたブース（出展場所）が入り口から最も遠い場所であるためか、人の流れが昨年ほど多くなかったのが残念です。それでも若いスタッフが中心になって、手工芸品の展示レイアウトを工夫するなどし、2日間で6万3千円余りの売り上げがあり、まずまずの結果でした。今回は買い物目的だけではないお客さんも多く見られました。民族衣装を着ているスタッフに、「課題学習でしらべているので、写真を撮らせて下さい。」と走り寄ってきた小学生。「NGO,NPOについて説明して欲しい。」という高校生や大学生。また、活動の内容を熱心に聞いて入会して下さった人達。何らかのボランティアにかかわりたいという人々が確実に増えていると感じました。

ビートの効いた打楽器や民族音楽の音があちらこちらから聞こえてくると、自称‘イベントおばさん’の私もジットしていられなくなり、会場内を一周。バングラデッシュの熱々のサモサを食べながら、イエメンのモカ・コーヒーを飲み、アーモンドを摘まむ。まさに素晴らしきフェスティバル！　（甲斐）

― 本当にハッピーです ―

九島ジェニリン

日比谷国際フェスティバルに参加してハッピーです。とても素晴らしい経験をしました。フィリピンにNGOは多いですが、地方に多く、今まで参加したことがありませんでした。
この経験を帰って友人や家族に伝えます。こんなにたくさんのNGOが協力し合っているなんてみたことがありませんでした。例えばフィリピンでは、コンサートを行って寄付を募り、ストリートチルドレンやホームレスの人を支援します。また、マニラに住む日本人は障害者やピナツボのアエタの人々に支援しています。日本の人々がフィリピンを助けていることを知って本当にハッピーです。　（九島ジェニリンさんは、レイテ島中心のタクロバン生まれで、現在はマニラにお住まいです）

「収入向上」ゾーンの当会ブース前で
左から：橋本、相田、森田、佐々木、ジェニリン、山崎、甲斐

「第10回全国ボランティアフェスティバルかながわ」に参加しました

参加者からの質問を受ける講師の皆さん

写真左から：森田さん（当会スタッフ・通訳）
ミンダナオ島「モロ女性センター」アガリン・サラ・長瀬さん
「パプアニューギニアとソロモン諸島の森を守る会」代表・辻垣正彦さん
「日本ラテンアメリカ協力ネットワーク」代表・青西靖夫さん
（9月23日・横浜市あーすぷらざ）

去る9月22、23日のフェスティバルでは、当会もシンポジウム「先住民族・少数民族　―開発と人権侵害―」を、23日に主催しました。
あまり報道されない地域の現状を知ることができてよかったという感想もあれば、短時間で話すには、いずれの地域の問題も大きすぎるというアンケート回答もありました。質疑から一部ご紹介します。

Q:（アガさんへ）モロ先住民族が日本のODAによる漁港建設で、立ち退きを強制されたというが、予め住民への説明は？日本は、代替地を用意する義務があったのでは？
A:　行政からの事前説明はなく、突然フェンスが張られた。日本政府は、建設に関わる契約履行義務はあっても、住民への補償等は、フィリピン国内法の問題。
Q:（辻垣さんへ）現地の砒素被害の状況は？
A:　汚染した生活用水を浴びた住民や、事前に注意を受けなかった作業員の足にただれができた。
Q:（青西さんへ）グアテマラの「政府」とは、どういう人たちで構成されているのか？
A:　政治の実権を握っているのは、経済と同様スペイン系の一部家族で、多数派の先住民族ではない。　（報告：佐々木）